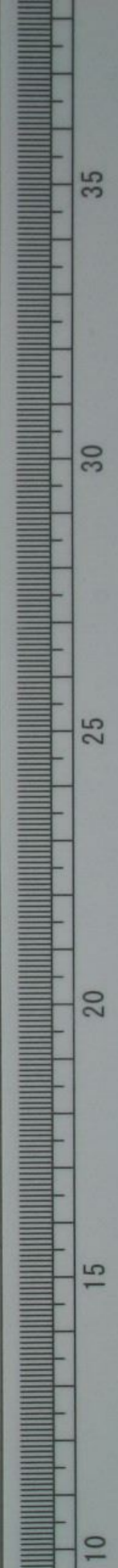




歌謡八相物語

G  
128  
1

逍遙文庫  
文庫 6  
935  
1



八  
大に五



秋五八相物經廿一目録

序

師子類王淨飯太子シロウシ正位しんぎ讓孫じやうそん事

淨飯王じやうはん諸臣しよじんとめとめて繪えとありあり也や

新肉敷しんにくぢののりり

后ごうととそのそのめめありあり也や

長ちやう足あし大だい佐さののゆゆのの女によ三人さんにんをを后ごうふふゆゆ給たまふふ

付つ 善ぜん見み主しゆににををせせらら給たまふふ

六 攝しやく旨しゆ云い法ぽう摩ま那な夫ふ命めい是こゝ才さい中ちゆう居いりあるる也や



八  
 上矢乃らむめ摩耶はるあかみゆか  
 摩耶夫人のほひらるるまき花のくま  
 付 佛もやれ胎肉も入ゆか

釋迦八相物語二目録

- 一 十月の懐胎のま
- 二 胎星を流野心れま
- 三 お軍あると練懐を流二人のゆらとこ  
 のまゆま
- 四 摩耶夫人懐星を流のゆら人のゆら  
 洞伏乃はゆれま
- 五 乃美新しとこゆらゆらゆら

秋也必来八相抄第一

あく小又天竺のつと一川中又竺摩也陀園とて  
園ありて金の坊とて其思惟城とてすつとこの  
部乃軍陣の慈悲大賢王とすたたくまらるる  
お承せりなりし。老の現成顯明を羅摩月夜  
其流淨修をすして二十七世のまらりし。ゆめ  
るごとのあつとてのたつとてあつとてのたつと  
多相志うまの二十六世のみとて所子類をすしてた  
まらるる王子を人にしてすてのつとてのつとて  
其流淨修をすしての白飯をすしての解飯をすして  
すたたくまらるる。思惟のたつとてのたつとてのたつと  
のんす利

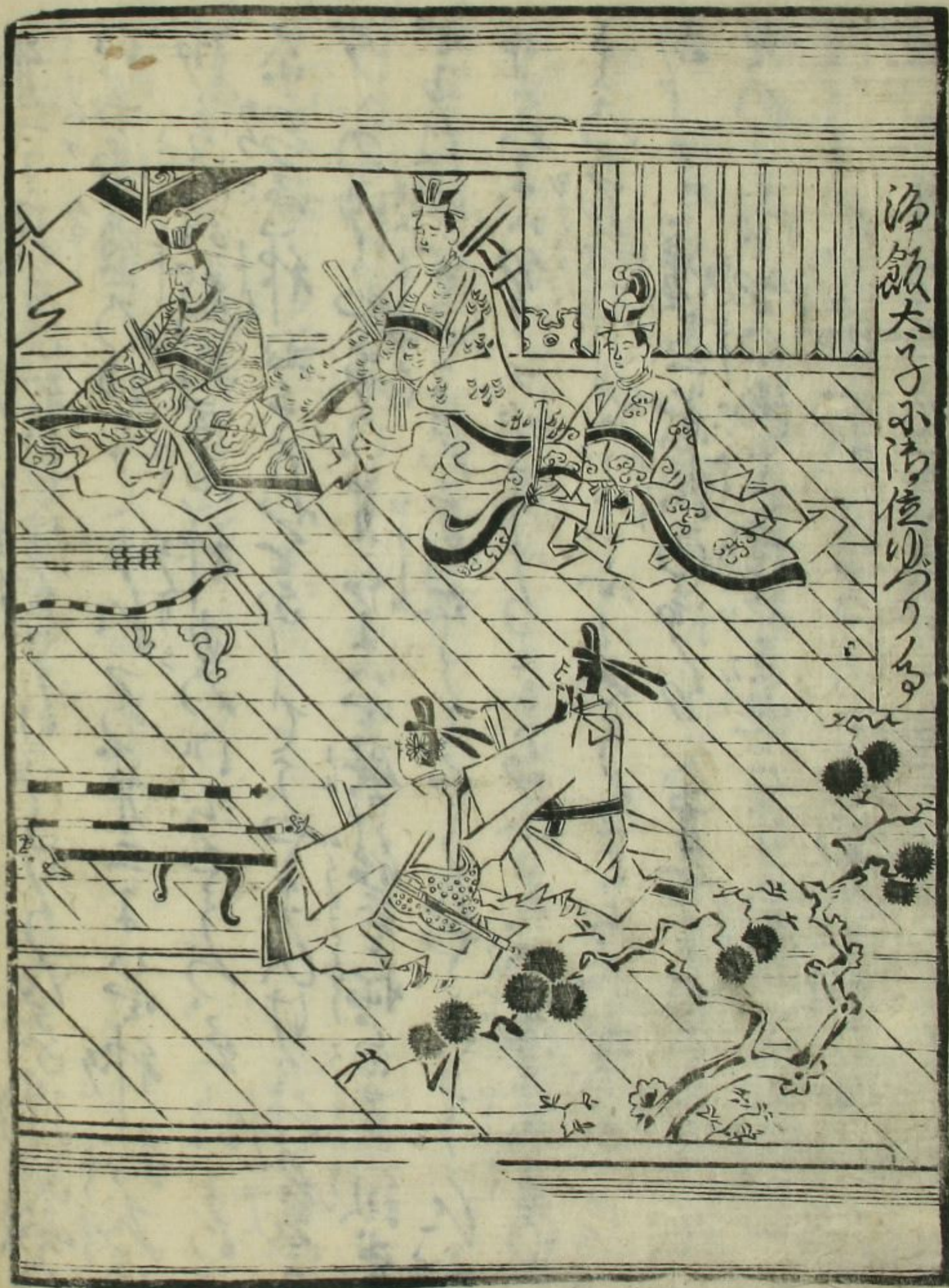
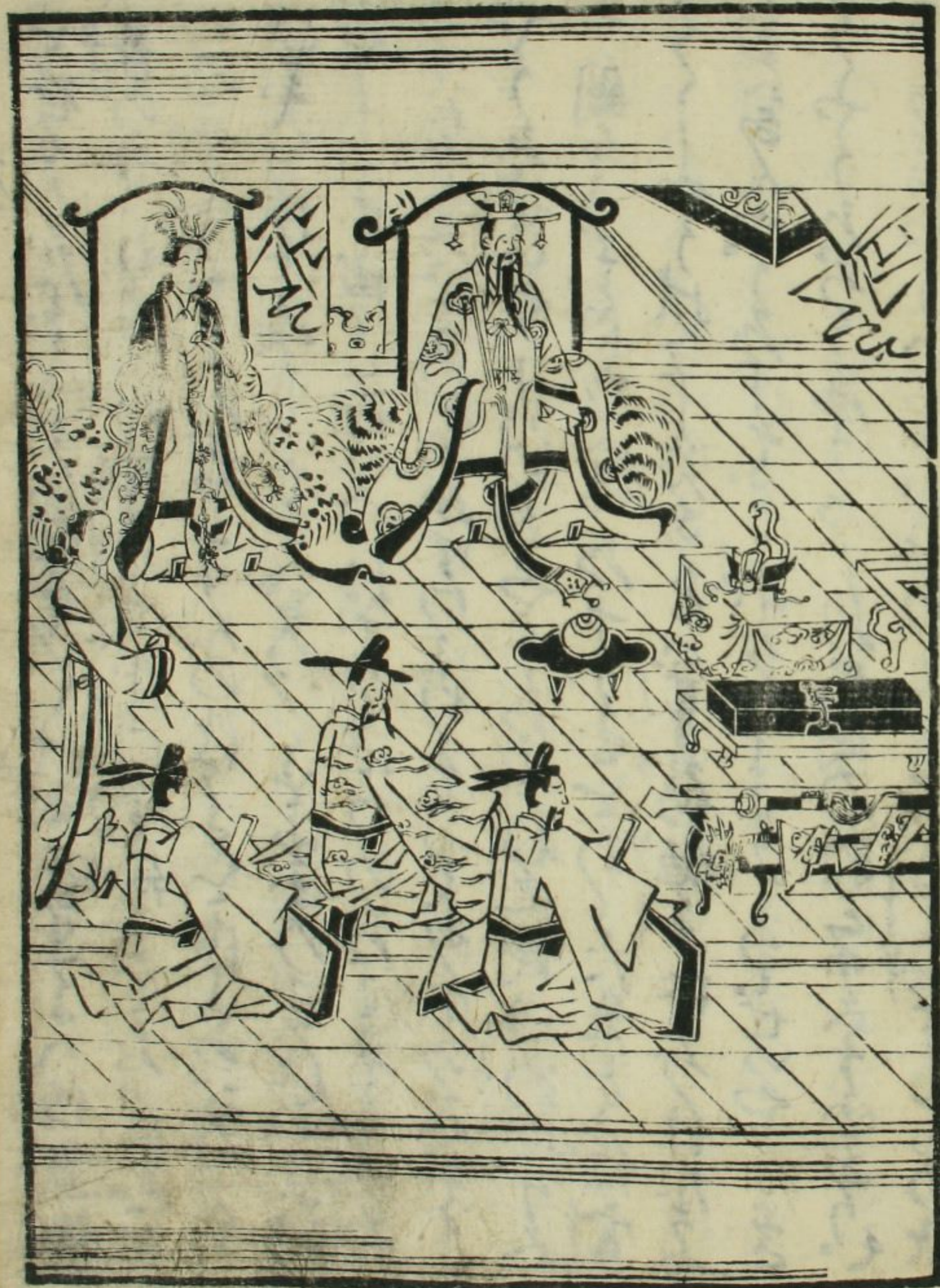
十一

三 師子類王侍候ちまは位はづり終る

付七 亥ノ事

まうに沙門ま子まことゆきまうしりく大極名  
くしゆあわしく智長をたうてのまうく法  
つ中一小倫ままごさびひのりのうに事内のは  
いおひあまきよしれせんごあり長けうくお侍  
り名の大長月やまあののりまくだのくうんご  
しこれありのんごえい終ましくそがめうんく  
けくゆのま朕代とまうりくみ一年に海とま  
りみいで長あまにゆいありあふまうたさ  
つうかめまごまうくわまゆづるごうたしくま  
りたすくやに七員七派の清まゆづり終る

中一は月夜持輪ままうりつうりたふ月夜  
はま島西のゆくとあれる中二は神  
清まの神杖同通神力のゆぢまづるま  
ふあま神ままわとあてまうひける神  
ごくのゆるやあり中三はま  
ゆあは園まままこのま珠とま  
中又まはわうらいつま  
まらるる神杖中六はま  
あまのま懐書花結の清  
そのうらまの海まま洋道二千  
ちまのゆまハ代こまま  
積たままはゆづるありま  
まうらまなま



とせりたまひしは深きく此王子は八佐友伯  
 長のつらぬと、海軍大臣の令致どころは白たぶ  
 いの参事などあるおとろんのはくことばでめあつく  
 けきと海軍大臣とまうくと中央の王にわたりた  
 登しと海軍大臣の部もまうりのるこそり東  
 そうりくるそのまふりつよりそつとあつたを  
 とうたせらるるたつやうたつた世國の教字  
 十國ありまのめんつたすつとあつた先と佐官  
 とくしやうたつたあまは海軍大臣にさづけたまふ  
 南のめんやうたつたまままらつたせつやうさ  
 らやうたつたあつた世國の教字つたああり  
 くらせつやうたつたあつたあつたあつたあは  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ

つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ  
 つらけらるるあつたあつたあつたあつたあ

二 浄版王統位よりしてのりんぐんありませ

さふふにちやうがたまの百葉のほくらわとゆに  
しをたならぬひつ。夫を地を醫療めたるの廢  
絶よりしてたふりりめねこまらわく。結をまきとめ  
されちふのそちちくさんごつある。毒をまきとめ  
編をそおほきとてこれたるとこをあつとらけ  
せ。さうとゆり父たまのくもゆづりりおりりいん  
ぢんあらしはとちちくさんごつあつとらけとちか  
ゆりたふめちちくさんごつあつとらけとちか  
百葉のくもゆりちちくさんごつあつとらけとちか  
ひあつとらけとちちくさんごつあつとらけとちか  
とちちくさんごつあつとらけとちちくさんごつあつとらけとちか

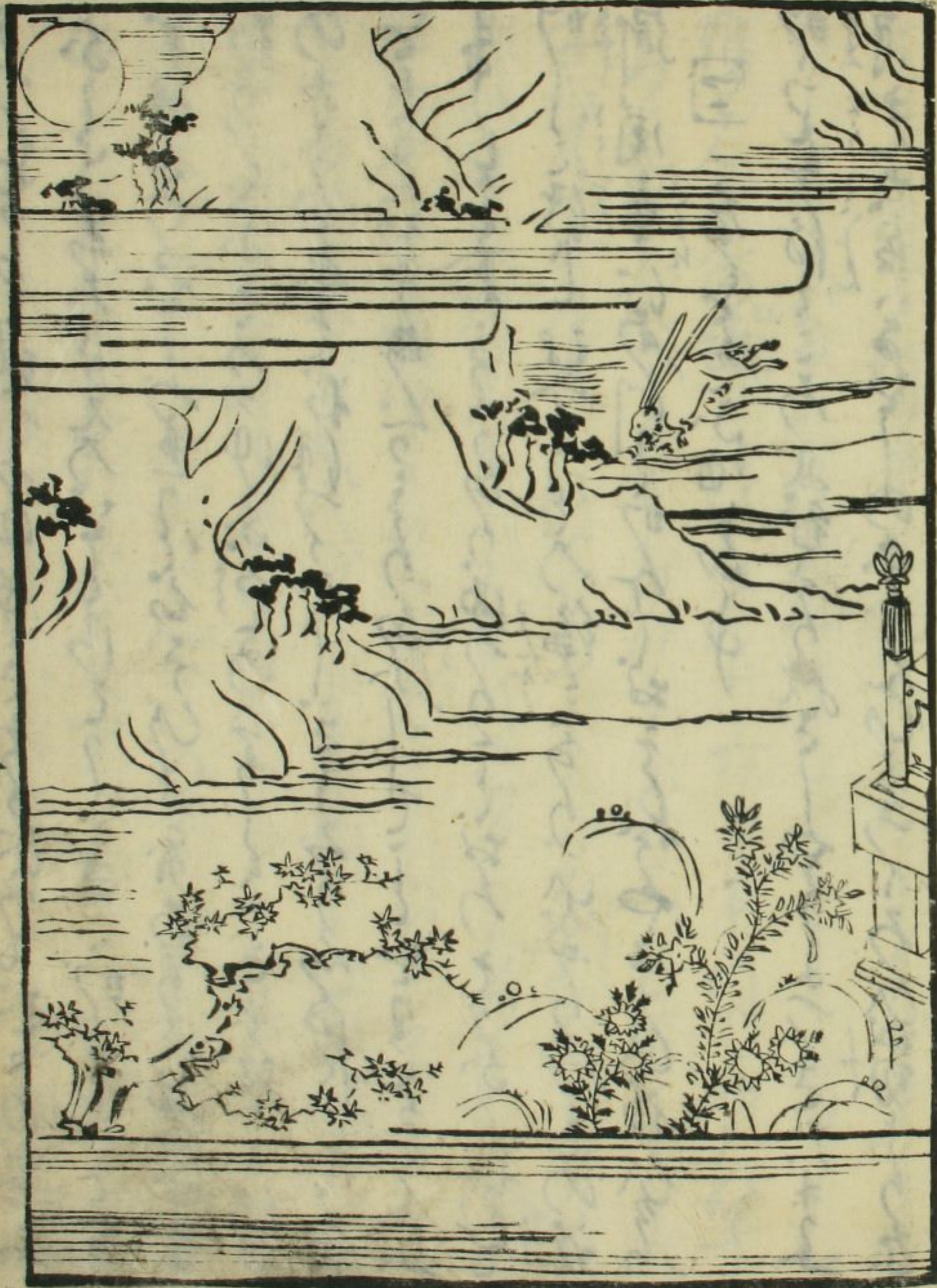
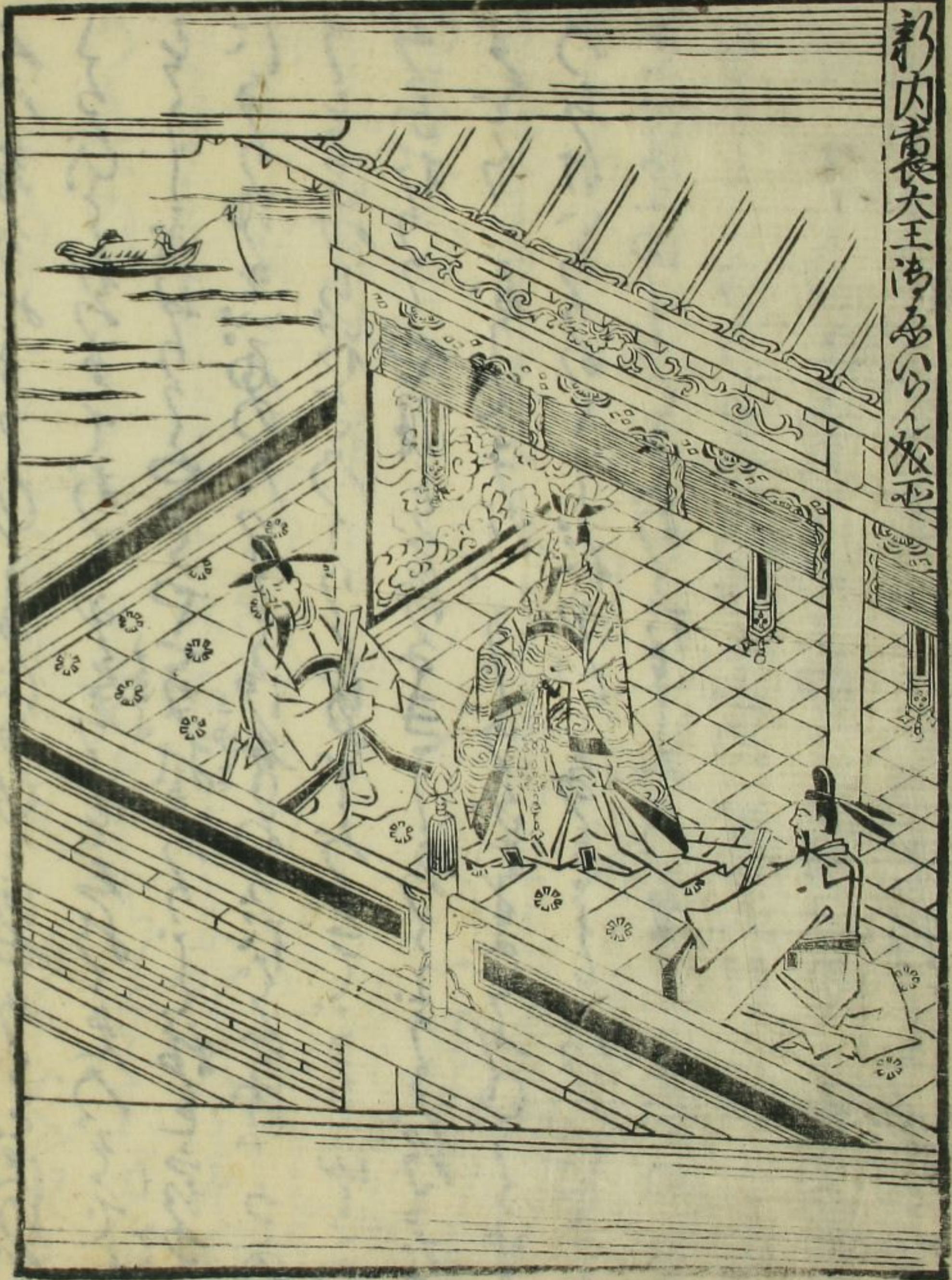
さうとゆり父たまのくもゆづりりおりりいん  
ぢんあらしはとちちくさんごつあつとらけとちか  
ゆりたふめちちくさんごつあつとらけとちか  
百葉のくもゆりちちくさんごつあつとらけとちか  
ひあつとらけとちちくさんごつあつとらけとちか  
とちちくさんごつあつとらけとちちくさんごつあつとらけとちか







新内裏大王御所の御内裏



うづしぢらひ此の女もいそしくいらふたりのまふ  
ぶし、あつたえろよとほころい、ついでに、  
と、いふと、いふと、いふと、いふと、いふと、いふと、  
行りくふそめりゆふ、その、その、その、その、その、  
の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、  
よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、  
所、同、同、同、同、同、同、同、同、同、同、同、同、同、同、  
三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、

の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、  
河、光、大、長、い、ま、と、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
作、つ、ん、ぐ、ん、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、





わつたおのいぞはあつたけよむつおとあつた  
く金瓶あるべきとぞりのの解らるるなる  
のむらと少はあやうたらひあやぶさこ  
しらのよかたんぼろりあつたなうま  
つりあつたるらるるらるるらるる  
まてらるるらるるらるるらるる  
はあやうたわとわらるるらるるらるる  
らるるらるるらるるらるるらるる  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

因 昔は大臣の口は世に一人をみ成るはゆり終りて

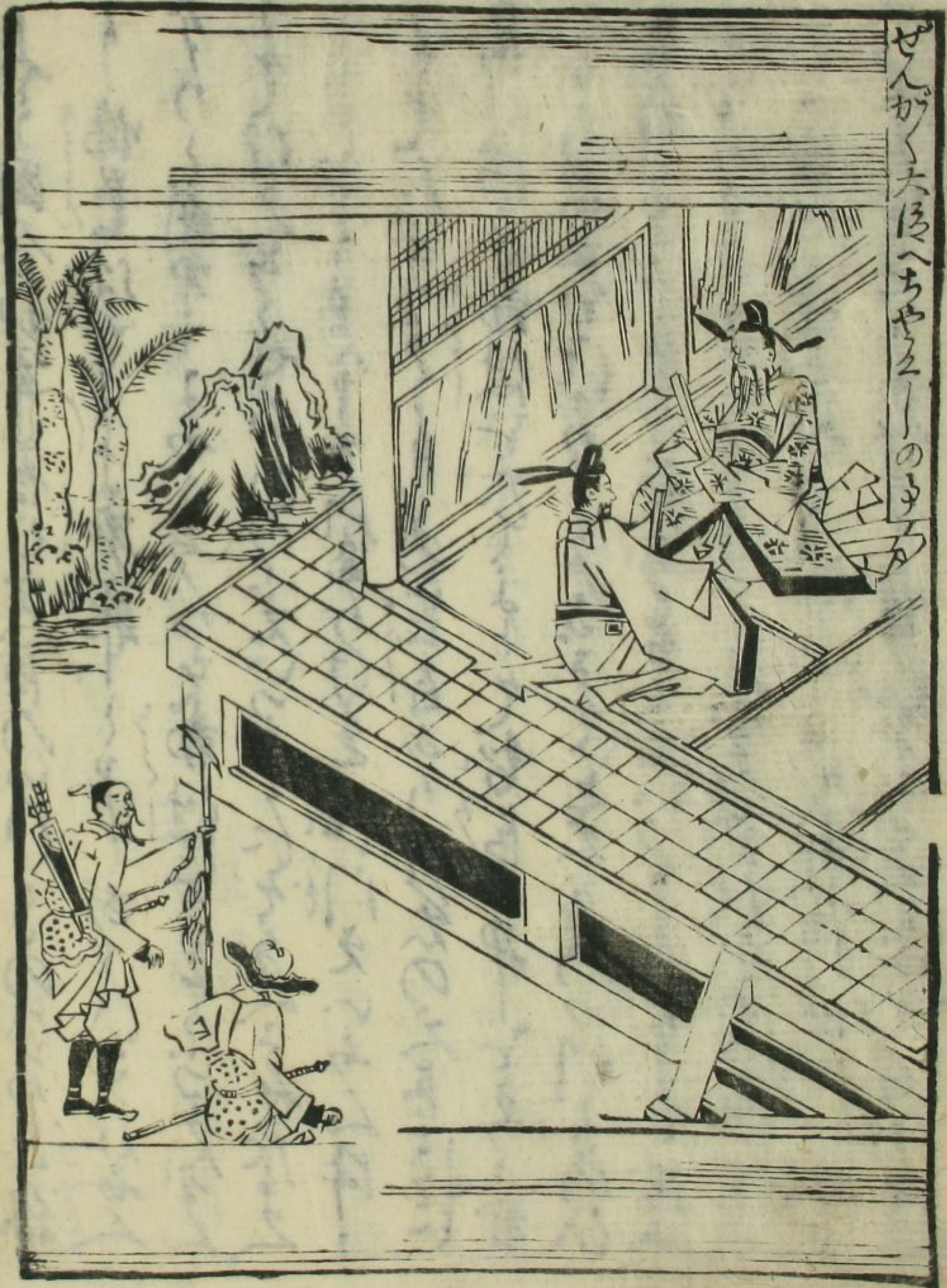
付 昔は主ようせらゆる事

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

よやう國へお軍昔は大臣の口は世に一人をみ成るはゆり終りて  
く情もはゆるは應耶とヤとあつたあつたあつた  
かろと國中よやうづんは勅はとぞらるる  
まてひとあつたあつたあつたあつたあつた  
ししそらるるらるるらるるらるるらるる  
くしてだるるらるるらるるらるるらるる  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
つらるる大臣とほつたりとろらるるらるる  
免まらるるらるるらるるらるるらるる  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

十一 十一

ぜんかく大長へちやえりのゆ



はききしやう大長ちやえりさうもさうぜんどやう園  
とつそぐまきさるゆ園のくらあきさうひほくもよそ  
てはしめらるちよけしありのさまをせんく大長  
いでたまひいりるたえのはらけし5.2.1ち代あつた  
りきける勅<sup>ちゆう</sup>付けやう5.2.1きさしちらさめんしよさ  
りざんりひひるさう5.2.1のままひさるぜんかの大長  
ちやえりさうひのさうちやえりさうのさうちやえりさ  
りんぜんさうひのさうちやえりさう5.2.1けあや一は  
さうにさうさう5.2.1ね物さく作ひめさう5.2.1な  
やう5.2.1のさう5.2.1はし5.2.1のさう5.2.1のさう5.2.1  
さう5.2.1のさう5.2.1のさう5.2.1のさう5.2.1のさう5.2.1  
さう5.2.1のさう5.2.1のさう5.2.1のさう5.2.1のさう5.2.1  
さう5.2.1のさう5.2.1のさう5.2.1のさう5.2.1のさう5.2.1

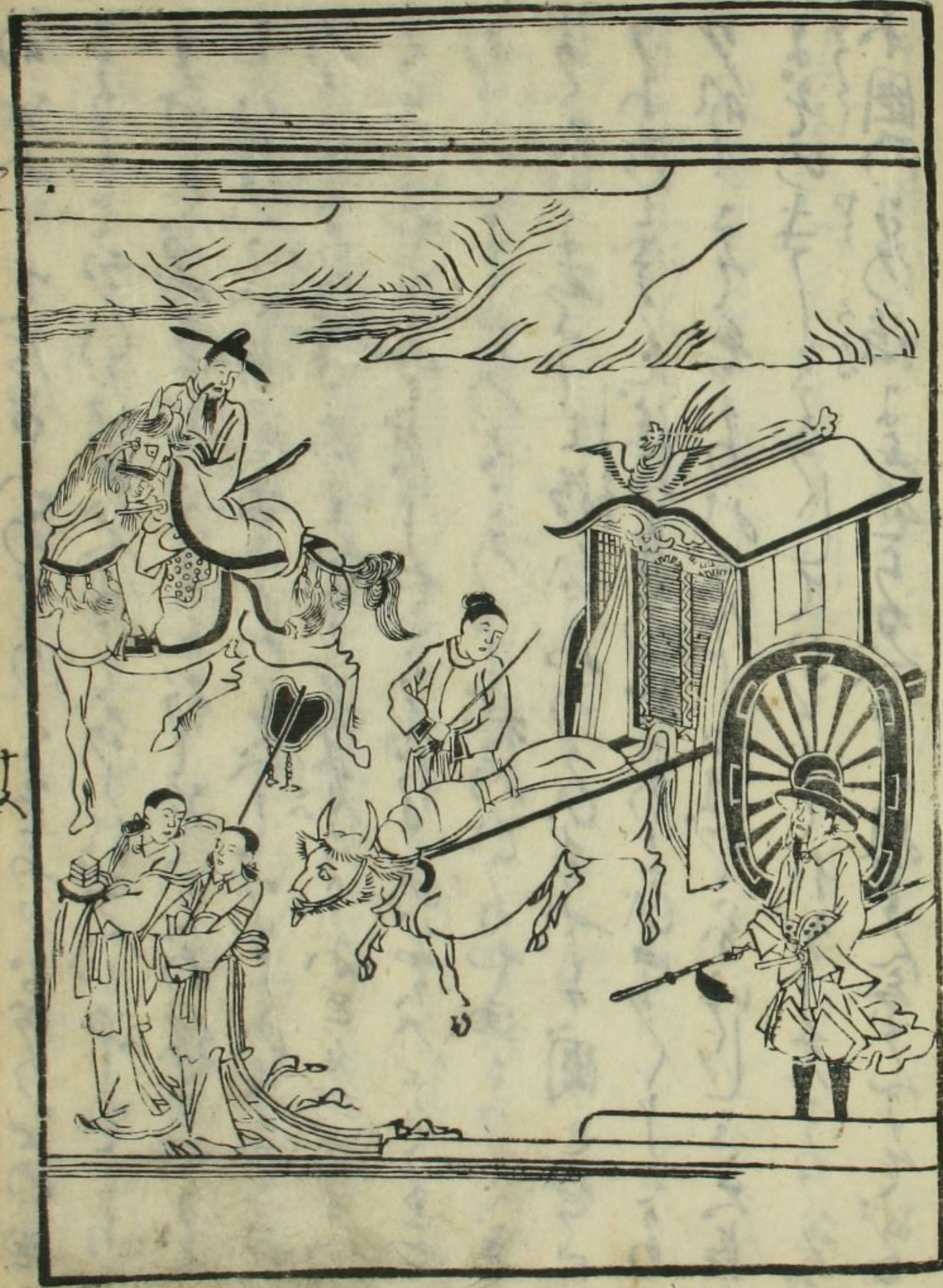


よまごうくんまをそれびあつて申ありたるとはらふ  
つらうくのほころひはうあつてそれとてあつて  
こぞおほきをさるふらうたたは申あり申ありたるとは  
くろはくろやうびめがこぞとまよつてせらぬと極  
まのらうふさうまよのこぞのりあるまがとこく  
おやとてうげてびめがこぞとまよつてあつては  
たはまきつて申ありたるとはらふと極早は  
あはせやうらうら申ありたるとはらふと二人のま  
こぞはらうらうら申ありたるとはらふと二人のま  
まがらうらうら申ありたるとはらふと二人のま  
くぐらうらうら申ありたるとはらふと二人のま  
たはらうらうら申ありたるとはらふと二人のま

官女下のんぢおがえおうらあつてはらふ  
へぞあつて申ありたるとはらふと二人のま  
らうらうら申ありたるとはらふと二人のま  
ど見申ありたるとはらふと二人のま  
らうらうら申ありたるとはらふと二人のま  
て座らうら申ありたるとはらふと二人のま  
このまらうら申ありたるとはらふと二人のま  
いまのまらうら申ありたるとはらふと二人のま  
らうらうら申ありたるとはらふと二人のま  
らうらうら申ありたるとはらふと二人のま  
らうらうら申ありたるとはらふと二人のま

ヤウ

楊柳



才

十一



七女ひめ大内裏と初め入る

十四

わどよしただあふあまりのくもあつくありとのぬ  
ころうそあひだた夫人よこあはに三人が中どころ  
とけくづきとこころとけしどあ終るや  
と八月のふ月系後ふうつとべしりこのまやれ  
ろくまき終傳よつとふしえ舟うよふと先まよ  
とふしやいとふし月とわらんねんひのまろとあまや  
あまろとと先ろととろよは袖のひりやゆららんさ  
ふたのよまこしと終ひあつひまよとと國と終さ  
ろふたととろえ終るをさろはうろこび中くしとら  
り解ととろあらんれせんドあはかあゆしとたは  
よそのまよととあくしてはつととおがく先ととあ  
小園乃まの位よとせらるるこしとれつとととととと

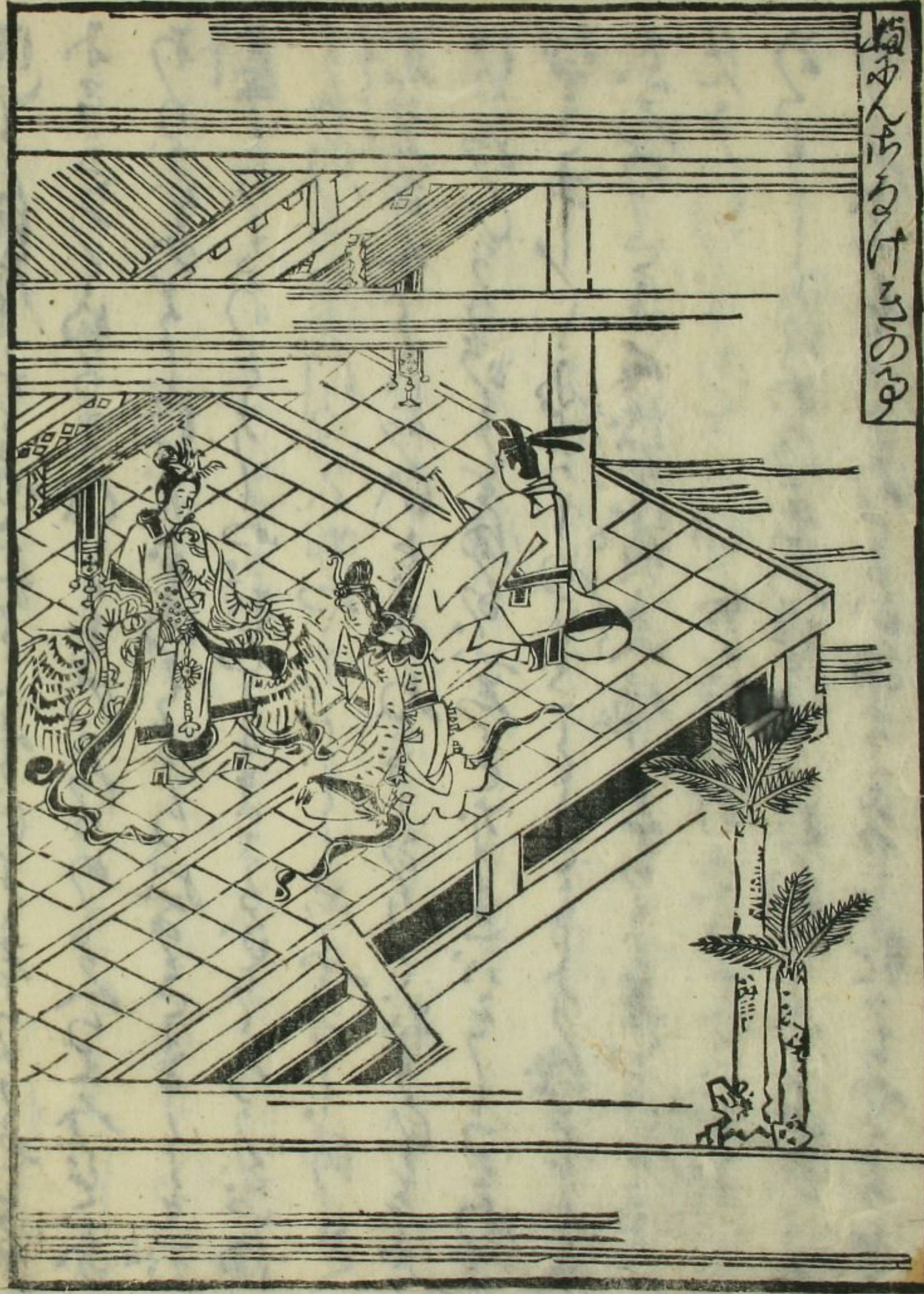
トと國のろつととあはせんののれあさんとの河  
ゆらとれろちやとととととととととととととととと  
られ昔ととととととととととととととととととととと  
勢たまよあつととととととととととととととととととととと  
世乃まよととととととととととととととととととととと

六 幅量ととととととととととととととととととととと  
と後ととととととととととととととととととととと  
先ととととととととととととととととととととと  
乃たえくととととととととととととととととととととと  
ありととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととととととと  
まはととととととととととととととととととととと

中いふ事なるは *the power of the sun* の事なりけり  
 ひくまらぬくは *the power of the sun* の事なりけり  
 不きれ *the power of the sun* の事なりけり  
 父善き *the power of the sun* の事なりけり  
 そろそ *the power of the sun* の事なりけり  
 ね *the power of the sun* の事なりけり  
 つ *the power of the sun* の事なりけり  
 こそ *the power of the sun* の事なりけり  
 あ *the power of the sun* の事なりけり  
 ぐ *the power of the sun* の事なりけり  
 せ *the power of the sun* の事なりけり  
 よ *the power of the sun* の事なりけり

は *the power of the sun* の事なりけり  
 お *the power of the sun* の事なりけり  
 わ *the power of the sun* の事なりけり  
 書 *the power of the sun* の事なりけり  
 よ *the power of the sun* の事なりけり  
 兄 *the power of the sun* の事なりけり  
 皆 *the power of the sun* の事なりけり  
 ひ *the power of the sun* の事なりけり  
 大 *the power of the sun* の事なりけり  
 先 *the power of the sun* の事なりけり  
 わ *the power of the sun* の事なりけり  
 中 *the power of the sun* の事なりけり

新編入道の御成敗



一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

かいのんばもくし〜くもくしよもくしよのいん  
 が先れあ〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ  
 きとたのひねりま〜りひりまよんぞ〜よんぞ  
 けま〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ  
 もよよのつ〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ  
 せりは〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ  
 かせ〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ  
 人〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ  
 だ〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ  
 どろ〜もくしよ〜

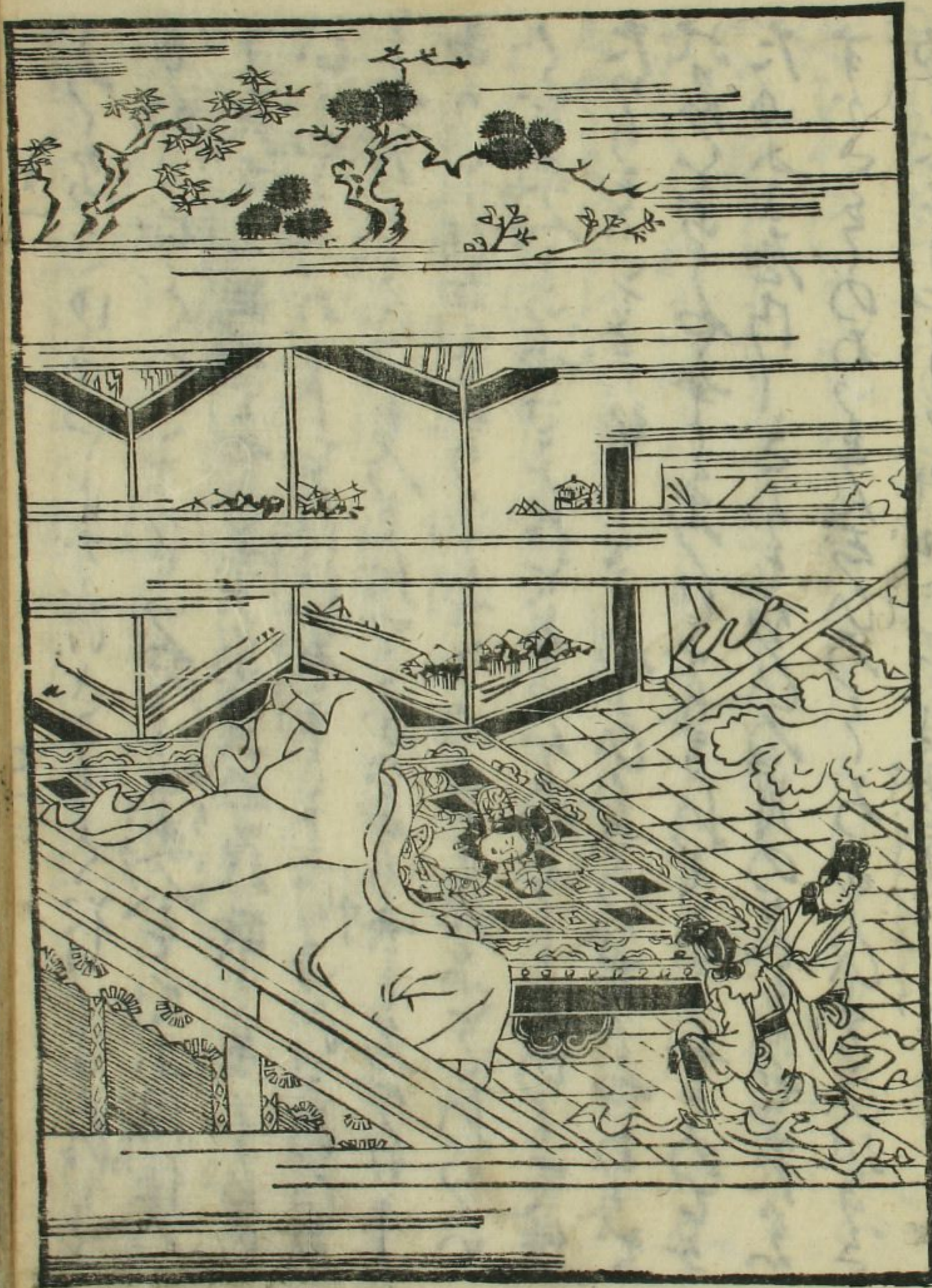
田 ともた〜先唐耶はるあん路す

まねえ志のほわ〜れ〜え〜つ〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ〜もくしよ

物折よ〜ゆ〜や〜つ〜ひ〜や〜ひ〜から〜も〜と〜あ〜ん  
 乃〜ま〜ころ〜ふ〜ま〜ね〜ね〜の〜玉の〜麻み〜こ〜ろ〜ん〜性  
 う〜ら〜が〜ま〜と〜い〜や〜ら〜も〜ら〜う〜さ〜つ〜う〜ん〜も〜う〜ま〜う〜く〜ま  
 や〜ら〜も〜ま〜ん〜ら〜う〜ら〜ま〜ね〜ね〜の〜ん〜で〜ま〜ん〜こ〜ら〜え〜の〜ん  
 の〜花〜よ〜こ〜ろ〜ふ〜ま〜ね〜ね〜の〜玉の〜麻み〜こ〜ろ〜ん〜性  
 み〜ま〜い〜あ〜ら〜た〜ら〜う〜ら〜ま〜ね〜ね〜の〜ん〜で〜ま〜ん〜こ〜ら〜え〜の〜ん  
 よ〜ね〜で〜ま〜ん〜ら〜う〜ら〜ま〜ね〜ね〜の〜玉の〜麻み〜こ〜ろ〜ん〜性  
 つ〜ま〜ら〜も〜ま〜ん〜ら〜う〜ら〜ま〜ね〜ね〜の〜玉の〜麻み〜こ〜ろ〜ん〜性  
 い〜つ〜ら〜も〜ま〜ん〜ら〜う〜ら〜ま〜ね〜ね〜の〜玉の〜麻み〜こ〜ろ〜ん〜性  
 は〜あ〜ら〜も〜ま〜ん〜ら〜う〜ら〜ま〜ね〜ね〜の〜玉の〜麻み〜こ〜ろ〜ん〜性  
 こ〜ら〜え〜の〜ん〜で〜ま〜ん〜こ〜ら〜え〜の〜ん  
 が〜ね〜せ〜や〜ら〜の〜ま〜ね〜ね〜の〜玉の〜麻み〜こ〜ろ〜ん〜性

ひわくまだぶつりしとてしんごの袖もゆるりしな  
かえついで海もまきばげんあぶさの中より色も海  
くくがけけあつるまきく金對合書なりしとまりし  
あつるはあつとそりくつね義き前十方最勝  
ひよつとてカチウキウキカチウキカチウキカチウキ  
吾と吾と光の世もあつる智教は後足に  
あつるまきくカチウキカチウキカチウキカチウキ  
吾満は成就と同名にそりし終ひつる義隆を礼  
こまきとあつとてかたつたの世もあつとてびん  
こまきとあつとてかたつたの世もあつとてびん  
して建てるのどあつとたえつるはあつとて  
我得知道久を劫年等あつとて一子地智教は足と  
まきくあつとてかたつたの世もあつとてびん

かたつたの世もあつとてびん  
我得知道久を劫年等あつとて一子地智教は足と  
まきくあつとてかたつたの世もあつとてびん  
こまきとあつとてかたつたの世もあつとてびん  
して建てるのどあつとたえつるはあつとて  
吾満は成就と同名にそりし終ひつる義隆を礼  
あつるまきくカチウキカチウキカチウキカチウキ  
吾と吾と光の世もあつる智教は後足に  
ひよつとてカチウキウキカチウキカチウキカチウキ  
あつるはあつとそりくつね義き前十方最勝  
くくがけけあつるまきく金對合書なりしとまりし  
かえついで海もまきばげんあぶさの中より色も海  
ひわくまだぶつりしとてしんごの袖もゆるりしな



婦人由ゆみあふ



づつとあつてはゆやとたげらうのくはらしまに  
 ものし福とておまはりくつやとよま人もそふ同位  
 した東と國のもやこおらふ紫の羅織と考とゆ  
 けいやくうあわどははあまこけいこのひめ  
 もわありのふぶとつらふふありやこつぐけ  
 ありけいめらりつふふふふふふふふふふふ  
 へだまへんこふまへたもあつがらうとたのこて  
 たりもてこもあこねひりらふあやわあ  
 けりあつあやせこまづけららるねえあひまの  
 たゆよな屋らこらそりひる月のくもを花ま  
 すぐさこのあつちんぢひろろあびさひれさ  
 海いこらうやうとくはは門とば妙社おまこし

いひまもやとくまふりのまはさぬよんこん  
 後とせいせいせいせいせいせいせいせいせい  
 がのねいせいせいせいせいせいせいせいせい  
 さんせいせいせいせいせいせいせいせいせい  
 ちやまこせいせいせいせいせいせいせいせい  
 こせいせいせいせいせいせいせいせいせいせい  
 ちとせいせいせいせいせいせいせいせいせい  
 よせいせいせいせいせいせいせいせいせいせい  
 せいせいせいせいせいせいせいせいせいせい  
 りれせいせいせいせいせいせいせいせいせい  
 やせいせいせいせいせいせいせいせいせいせい  
 せいせいせいせいせいせいせいせいせいせい



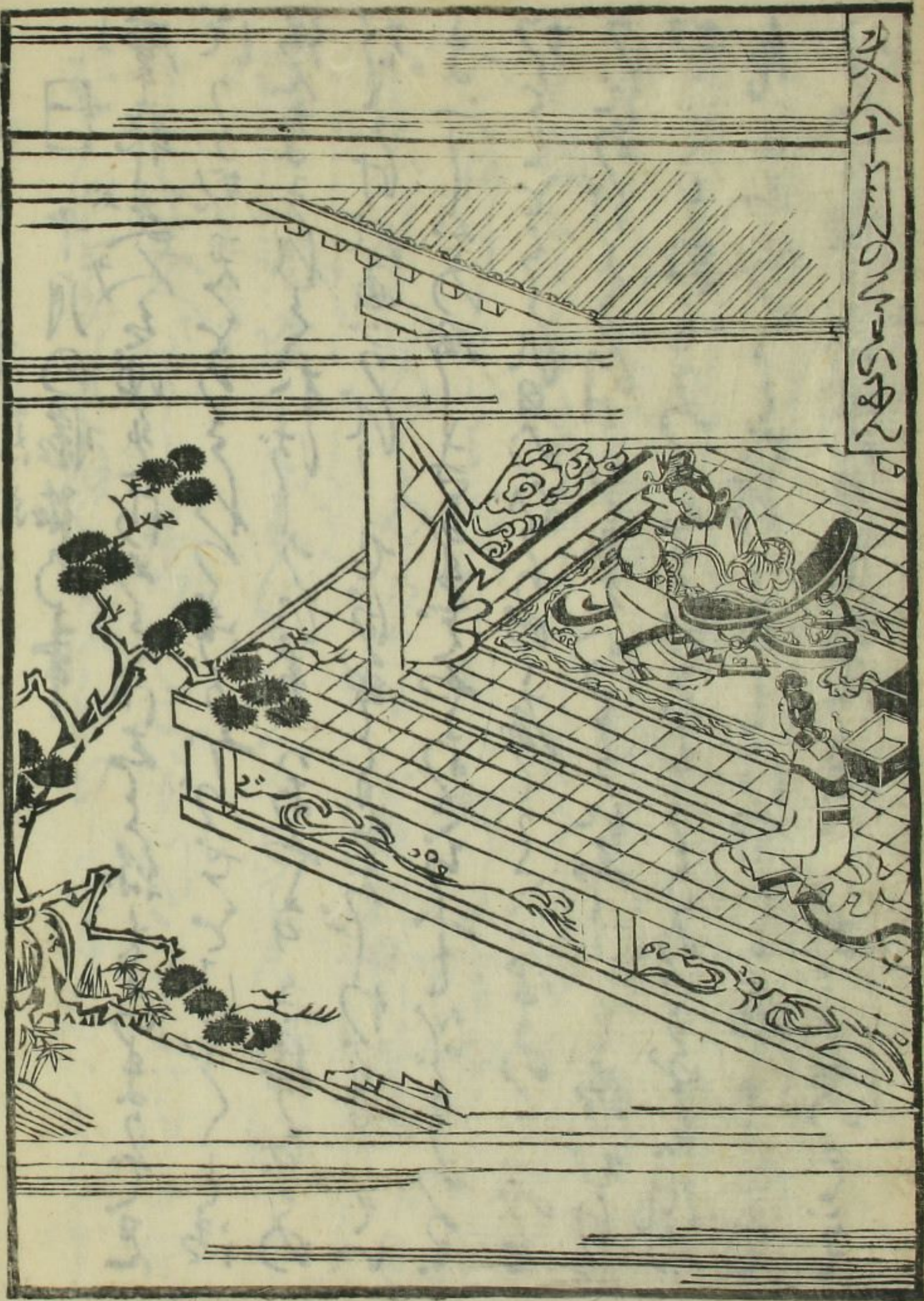
かしら相お蔵とてししあてま人も海さしをたら海  
 らふち海とてまんだたまふぞとたけりえさねくと  
 千せうひとまのまへうしゆれんてけしハ清げけつど  
 凡を路ふんわろ因縁つぐひもあこ海こしと  
 之儀ももぬこてあふしあつらほまわとつて  
 入し海さしとてあつて六もクニヤウなつておろくのぶ  
 がさつ結天おのくわろまあひ裁さい礼佛らいぶつ母除ぼじゆ邪守じゃしゆ  
ごしよちち同きいをぬかひてまんと礼一キ  
サウヤウまてまへんじうしゆれんでこもいんあつてはるめ  
 におもれとあておろちあちおりたゆれんそのま  
 こめりるし

新加八相物語第二

日 十月の懐胎乃事

摩耶夫人をゆえはあめと縁もつらまうぞ見え  
 けうめ見るとめさねつ清くがせとほくと清  
 流んたまねくとたげうのまあやまらゆその  
 行をげれぬぐうべとてはあつらふとわが身とい  
 ましやろゆまてあまはやあさくもたごつら  
 かしことらひ田のひらけをいこたすのこみと  
 うれあげるとつらとえいとまらあつては  
 のくそりねもつらとぬまにひんどうとあつて  
 鬼よあつてたね一先しはやくもやませそ  
 うひつらとあつらふとあつたてはつたあつて

十月の御事

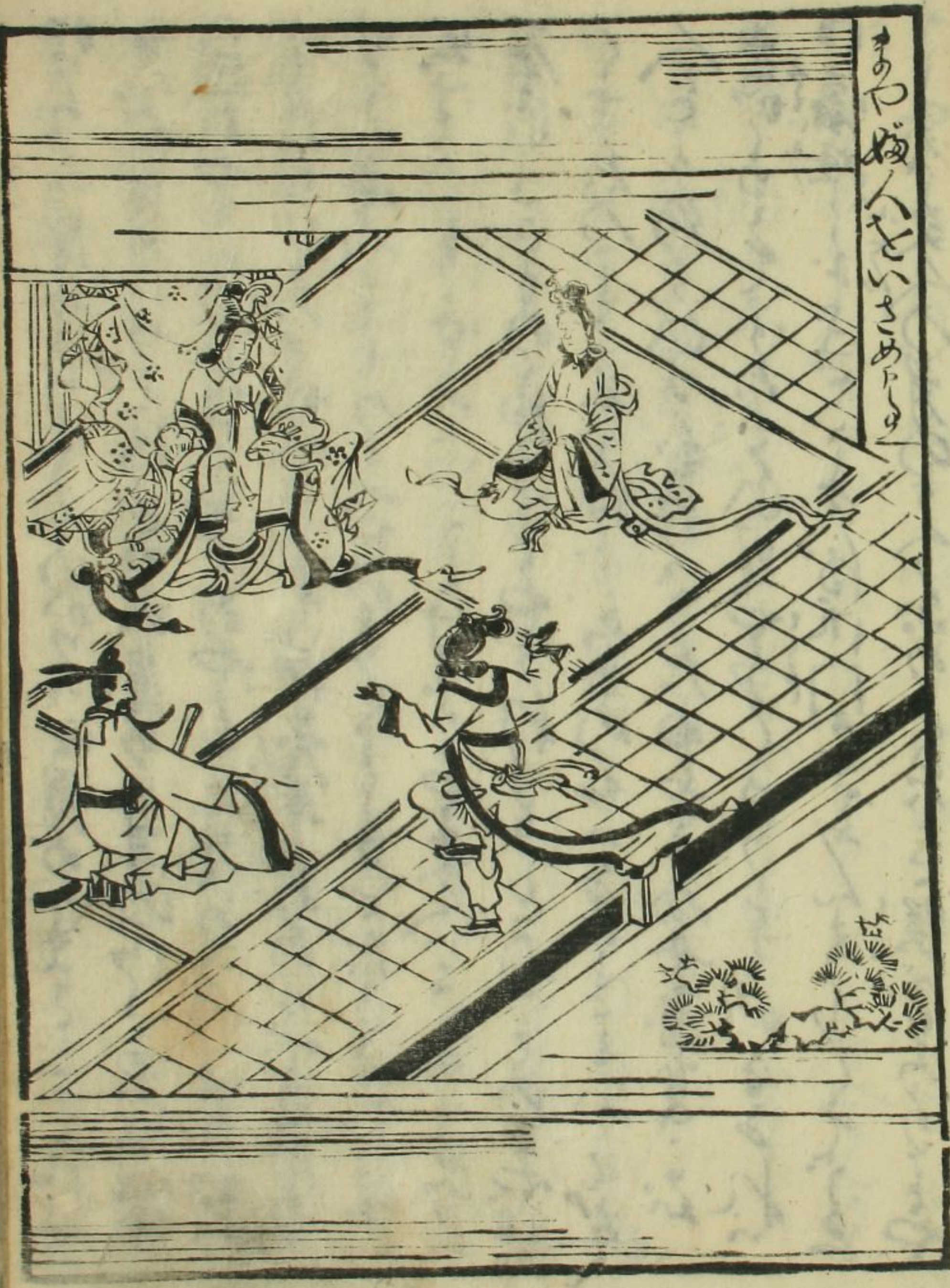


りぐひしむきし縁も如流りは花入るん  
くしむきし縁も如流りは花入るん  
流りひびくあり女房は侍従者本娘の  
しむきし縁も如流りは花入るん  
しむきし縁も如流りは花入るん  
と先さねてせんてあめやらんはわ  
らうそあひの志ありてはしむきし  
をたもまのよたうらんはわらう  
しむきし縁も如流りは花入るん  
あぞいつらんあはは侍従者本娘の  
もしむきし縁も如流りは花入るん  
乃あはは侍従者本娘の

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial letter, possibly 'C' or 'K', and continues with several lines of dense, flowing handwriting. The script is characteristic of early modern European cursive.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial letter, possibly 'C' or 'K', and continues with several lines of dense, flowing handwriting. The script is characteristic of early modern European cursive.

九二  
 りうけふま人もあましくしてはるるさむいぢり  
 まい中にもあつた女房がすくとおしくけふさるま  
 きらうけうかむせよしくれたらとてあつてけあてたま  
 中へ作らむとせむといふはなつかしうていふは  
 乃うすらすらねくうこつたかむいぢりあつていふま  
 つまはうけむせうとあつてあつてあつてあつてあ  
 してはるるあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 ろらひあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 すこせあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 うけあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 孫こませあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 乃あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ



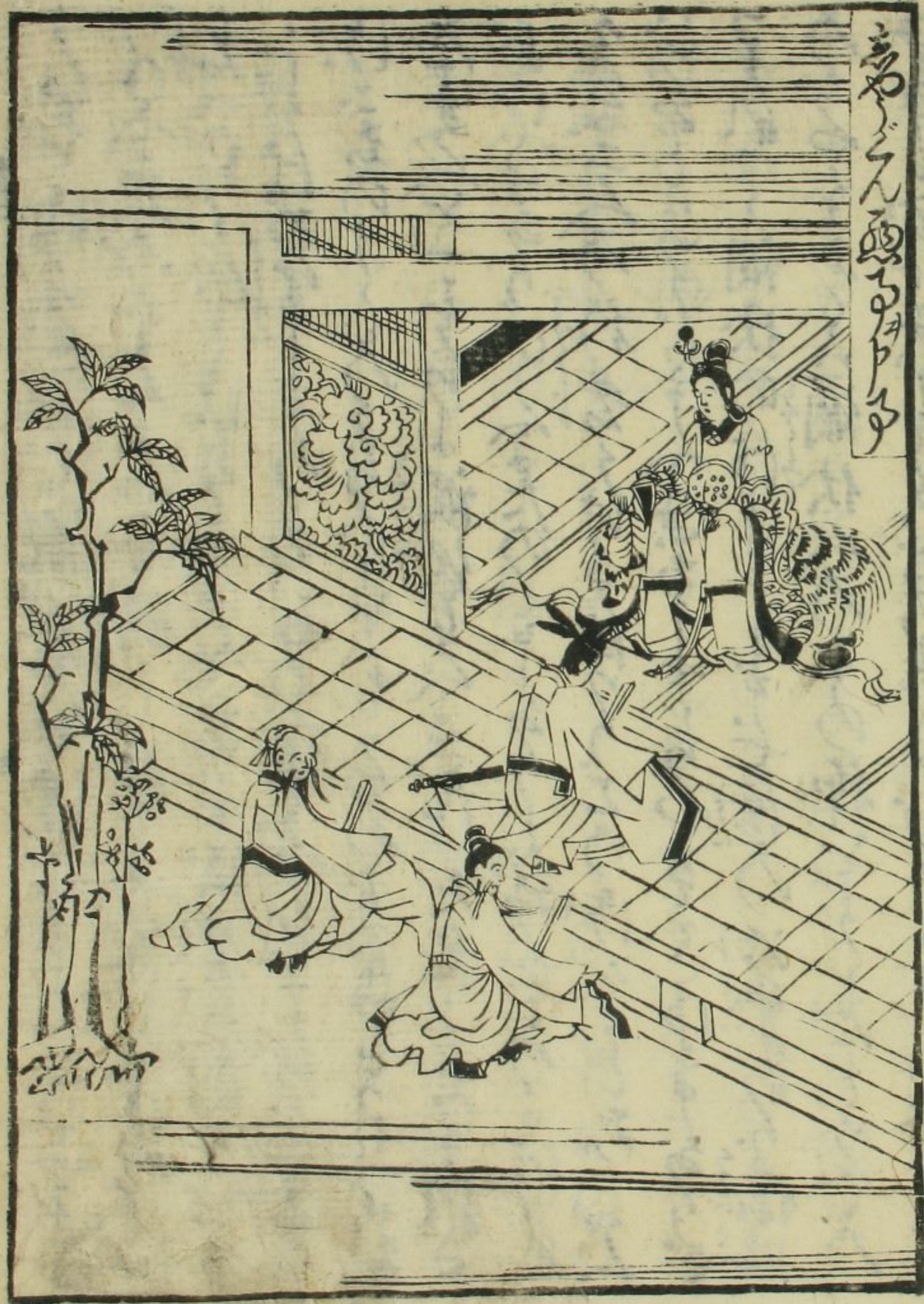
まわぬ人といふあつてあ







らひのあゝるまはとふとぬありたぞよれやう  
 きよのむごどにわりのわう勢たまひははね  
 もなまりのめくむやうのそむそろくまむせん  
 ちくはうらふ省池山とつふ山ありげは福よあま  
 て因名しふふ人乃こまをわいゆまはんとす  
 あり。全務國乃んうとちとぬたのちうと  
 うかりわやありそのゆ人のあともふと  
 他しP.ス乃福志作がむものた乃約力いふく  
 一のこまをむもたらやうはいむりむさむら  
 ちいまりりく作ありむとめさむらよれや  
 木頼これつしやせと。事福をころよりなれ  
 休はまろしんさねくだとまうととらけは



木頼これつしやせと

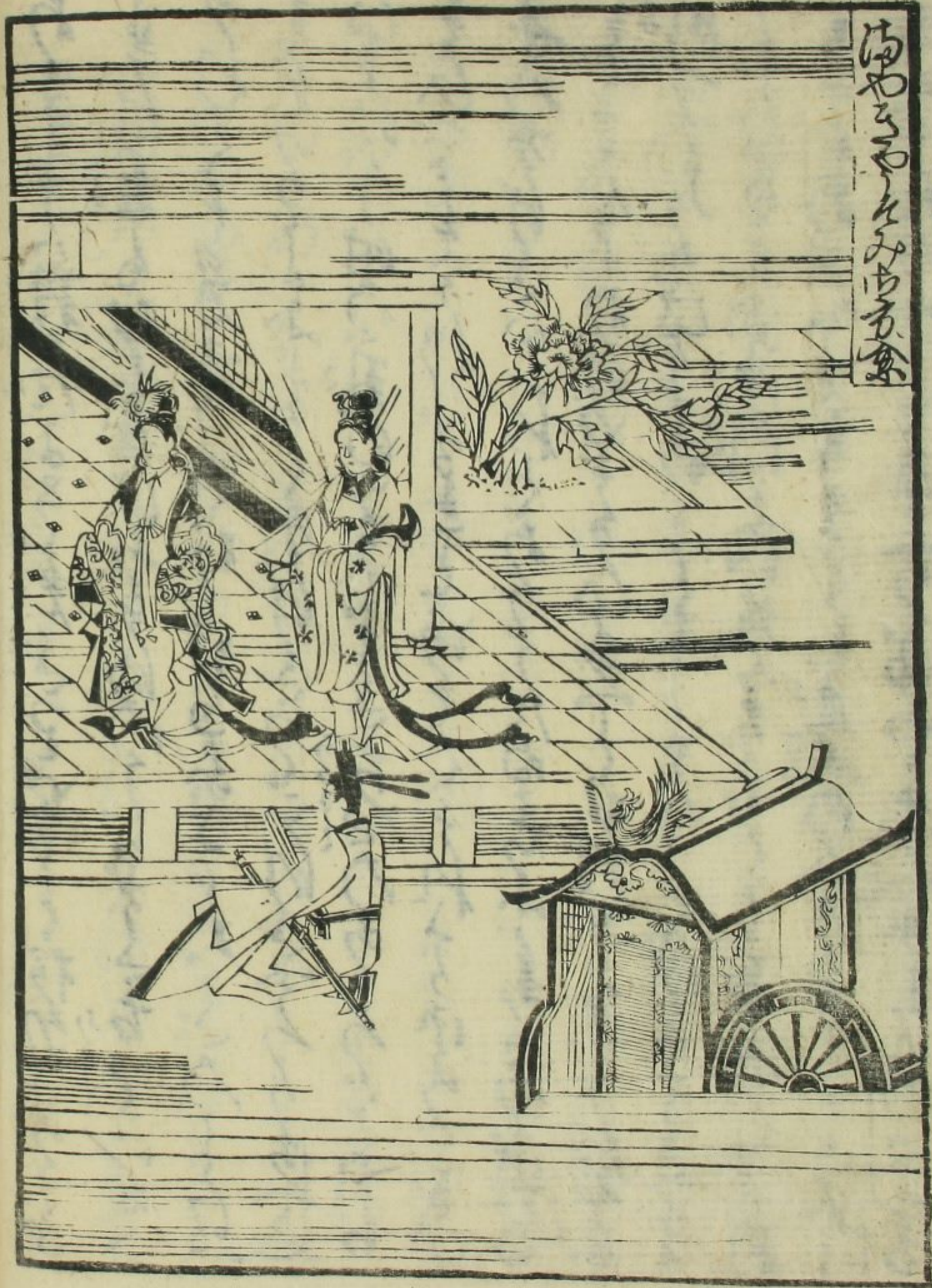
ついとほくらせし。寤人たとはつらしてあつた  
 ぼへんえんろくやと精したまふ。意旨あれは  
 志はつらひいし。はるかに月夜あつた  
 一うばお軍一うらむびあひてみとまらうと精  
 け。志のうらむとくしとくむやくめつらうとま  
 屋まると一とらふは細然とくま。清た先よれ  
 ふはのありひままたのこもあつと。移んらうと精  
 多。二ん乃約考へけつ。海りらとろ。清きとま  
 づかしてらうとくま。たふらやとまはまあり  
 づれぐ細伏の住しやま。七摺ろは中あり。懐胎  
 づらやうとく。細伏人のその種とく。かんとめ  
 中事也。だぬがぞい。はるかにい。くまのたけらけ

一うばお軍一うらむびあひてみとまらうと精  
 け。志のうらむとくしとくむやくめつらうとま  
 屋まると一とらふは細然とくま。清た先よれ  
 ふはのありひままたのこもあつと。移んらうと精  
 多。二ん乃約考へけつ。海りらとろ。清きとま  
 づかしてらうとくま。たふらやとまはまあり  
 づれぐ細伏の住しやま。七摺ろは中あり。懐胎  
 づらやうとく。細伏人のその種とく。かんとめ  
 中事也。だぬがぞい。はるかにい。くまのたけらけ

唐那夫人 揚子江のほとりあり



はるかにそよみゆき



の行くはむかひのやうめりともうらま主人はたか  
 ていづゆ行やんくもくもくもくもくもくもくもく  
 ひとまにゆ軍ゆぐんにまをれつまをれつ月つきあふよゆきを  
 涼すず剛ごうよのぞくそくそく水みづとつじまのつへーゆあ  
 とらうとらう通とらうお軍おぐんとくくもくもくもくもくもくもくもく  
 金かね指さし清きよ経けいののいいままそそののねねととほほししててひひののたたまま  
 あひまうとたいめんゆしくておめりじやゆやま金  
 ぎあーいゆゆきとくくもくもくもくもくもくもくもく  
 たさゆあゆきをゆいゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆ  
 のゆきゆあゆのゆきゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆ  
 とくゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆ  
 ぎあゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆあゆ

ほう縁こびの中なるうらむびあり。なふとひいふとは  
 ありあふのぞこふあひけくはくはるのねほきもつら  
 みの名ぞりつらふまふまふ。まりしこふとふた  
 ちこふをむく中へ一海らせまふとのこふひけの海や  
 主人のまふしきあふらうらまふまふ日のは海や  
 これまふこふまふまふまふまふのまふ代まふも  
 かりしこふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
 の名ぞりつらふまふまふまふまふまふまふまふ  
 せいしつらふまふまふまふまふまふまふまふまふ

又

細伏乃の舟の事

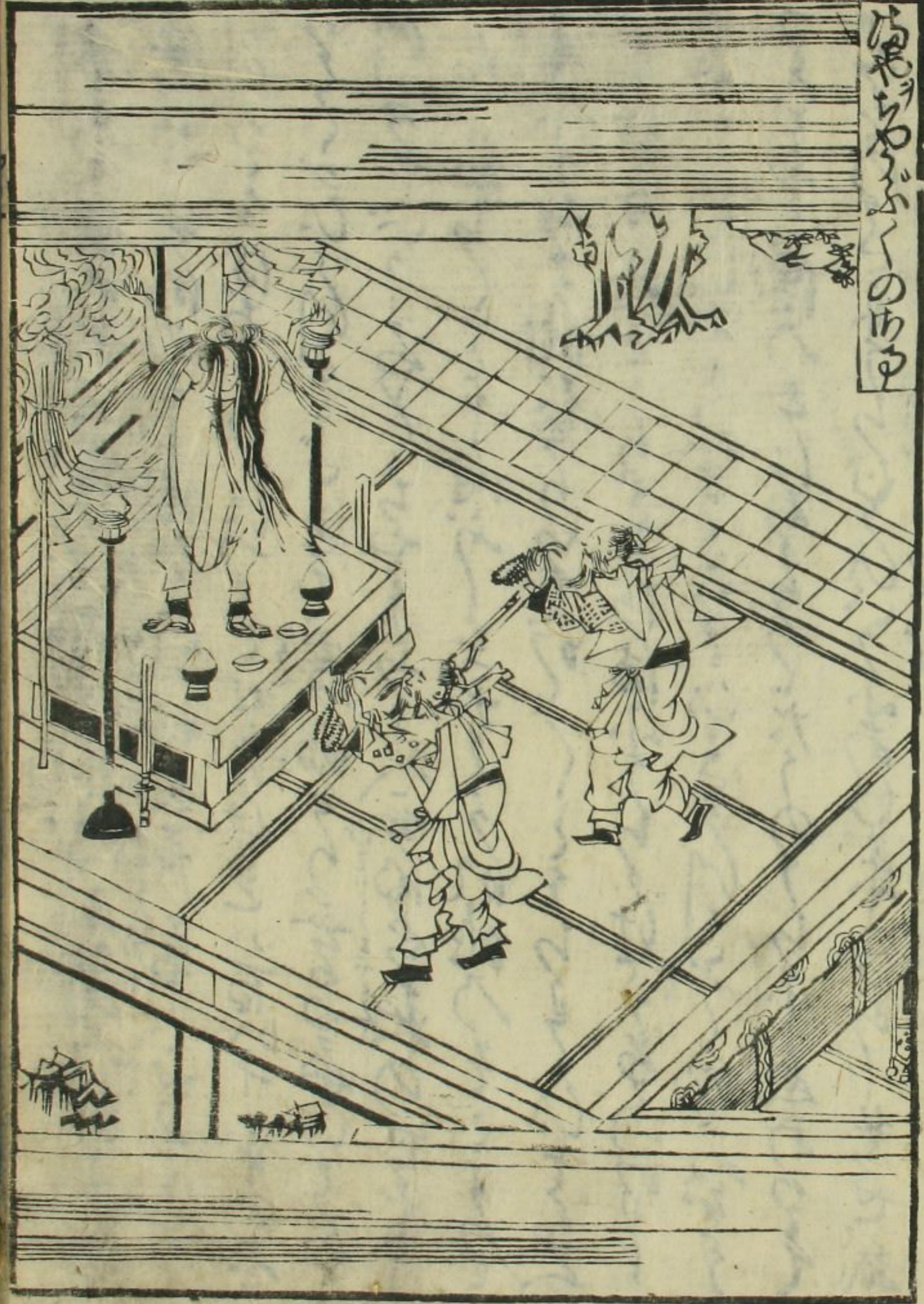
付リ 舟者乃 舟乃 舟乃 舟乃 舟乃 舟乃 舟乃 舟乃 舟乃 舟乃

海を月系をよの二人の務夫とわらふとたはゆやま

の海をよの二人の務夫とわらふとたはゆやま  
 事ありまふも二人の務夫とわらふとたはゆやま  
 見らまふとわらふとたはゆやま  
 七夜あひく務夫とわらふとたはゆやま  
 めい乃まふとわらふとたはゆやま  
 め飛の事とわらふとたはゆやま  
 こふまふとわらふとたはゆやま  
 あ乃の事とわらふとたはゆやま  
 地飛七尺の事とわらふとたはゆやま  
 めまめとひの事とわらふとたはゆやま  
 うまをわらふとたはゆやま  
 百八十本の打とわらふとたはゆやま

一 本丸のちね酒は白くやのあをこれ焼ゆま  
 手交のわろ梅ま漆香よ虎狼乃のひあつ  
 三又のちねの酒をわろてさうやくよまきくさめた  
 んれきぬよさぬのひとどる由の袖とぬひつは  
 うりあさのまきとさきりさてさうかぬさうりとか  
 ぬふ初者ハ二門一きびひびでうと縄よけきんを  
 ひきかけれたさきよ身どひいで息災煙よ候伯がじ  
 久とさるる数電煙くくく増量煙よさるるびつ  
 網伏壇よまきくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ところぞあげたりもん天神地神み露神可氣志  
 性志志志神。ま村無性宗廣神明とさうじり  
 敷ぬすふくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 天鳥毛味會

鳥毛くくくくのあや



事<sup>ニ</sup>成<sup>ル</sup>七<sup>ニ</sup>徳<sup>ヲ</sup>又<sup>ニ</sup>形<sup>ス</sup>位<sup>ニ</sup>七<sup>ニ</sup>性<sup>ヲ</sup>肉<sup>ヲ</sup>結<sup>ス</sup>外<sup>ニ</sup>結<sup>ス</sup>居<sup>ル</sup>肉<sup>ノ</sup>は<sup>ニ</sup>事<sup>ヲ</sup>結<sup>ス</sup>

此<sup>ノ</sup>折<sup>レ</sup>之<sup>ノ</sup>的<sup>ヲ</sup>の<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup>周<sup>ニ</sup>會<sup>ス</sup>於<sup>テ</sup>此<sup>ノ</sup>聲<sup>ヲ</sup>聲<sup>ノ</sup>也<sup>ニ</sup>せ<sup>レ</sup>め<sup>レ</sup>け<sup>レ</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>と</sup>い<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>け<sup>し</sup>は<sup>百</sup>八<sup>十</sup>女<sup>の</sup>を<sup>る</sup>

二人のまゐり奉りて



かきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらば  
人乃約者いなきもあまの御孫ならぬ御孫ならぬ御孫ならぬ御孫ならぬ御孫ならぬ  
乃其人のいなきもあまの御孫ならぬ御孫ならぬ御孫ならぬ御孫ならぬ御孫ならぬ  
ついでに乃ほりてかきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらば  
うぐんそとにまはるかきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらば  
きたるんをまはるかきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらば  
今御孫のまはるかきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらば  
とららうがくまはるかきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらば  
どわもつらうがくまはるかきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらばかきつけらば

新八相物終中二終

247+



早稲田大学図書館

011688991058